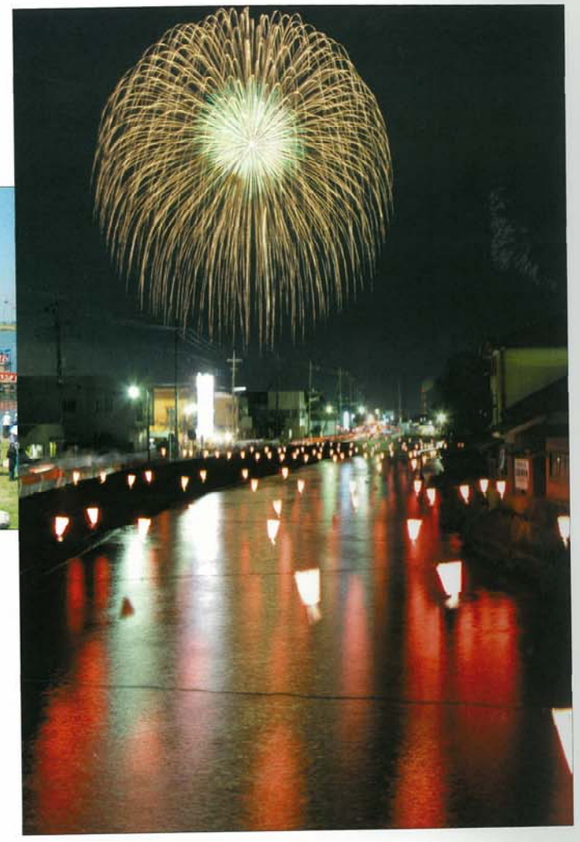


第23回 全国川サミット in 香取

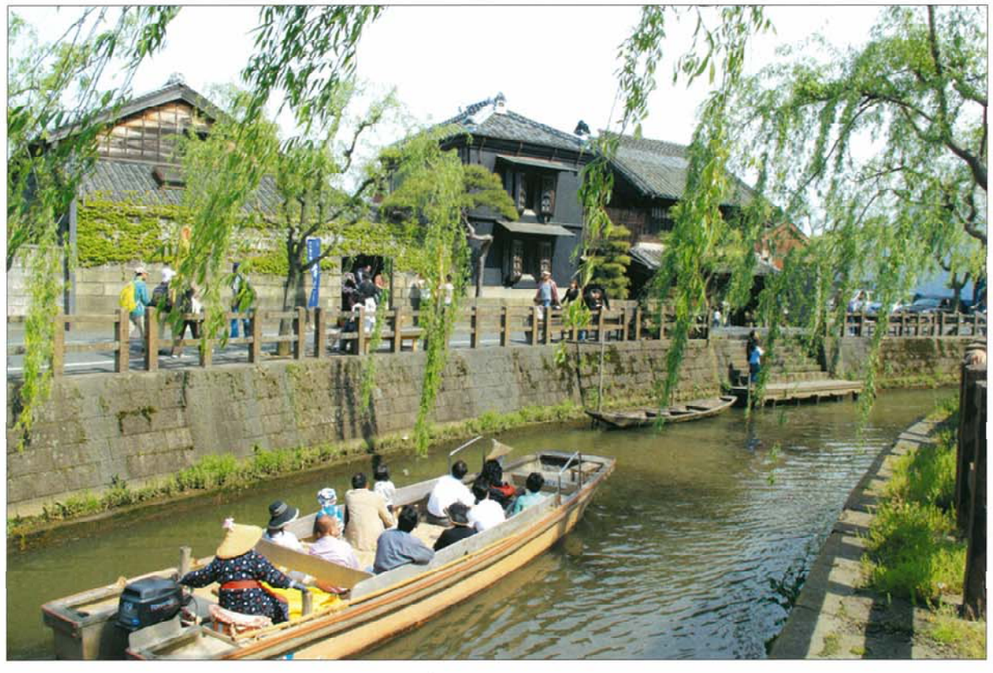
発行　第23回 全国川サミット in 香取実行委員会

香取市建設水道部都市整備課
〒287-8501 千葉県香取市佐原ロ2127
TEL.0478-50-1232
FAX.0478-54-7654

第23回 全国川サミット in 香取

～歴史から学ぶ川と私たちの暮らし～

報　告　書



平成26年10月10日(金)・11日(土)

全国川サミット連絡協議会

《 目 次 》

Ⅰ　開催概要

（１）全国川サミットとは …… １
全国川サミットのこれまでの開催地 …… １

（２）香取市開催の意義 …… ２
参加自治体紹介 …… ３

Ⅱ　実施内容

【第１日目】１０月１０日（金）
① 全国川サミット連絡協議会総会 …… １０
② 首長サミット（国土交通省講演・首長意見交換） …… １２
③ 第２３回全国川サミット in 香取開会式 …… ２３
④ 児童生徒研究発表　香取市立山倉小学校 …… ２４
児童生徒研究発表　香取市立佐原中学校 …… ２４
講評　東京大学大学院農学生命科学研究科　根本正之氏 …… ２５
⑤ 伊能忠敬記念館視察 …… ２６
⑥ アトラクション「おみが和よさこい会　和気藹藹」 …… ２６

【第２日目】１０月１１日（土）
① オープニング「和太鼓　響」 …… ２７
② 記念講演「歴史的資源・景観を活かしたまちづくり」髙橋賢一氏 …… ２８
③ アトラクション …… ２９
「千葉萌陽高校ダンス部」、「千葉萌陽高校茶道部」
④ トークショ―「川を語る」柳生博氏 …… ３０
⑤ サミット式典 …… ３１
⑥ 伊能忠敬旧宅公開セレモニー …… ３３

展示・併催イベント …… ３４

Ⅲ　第２３回全国川サミット in 香取を振り返って …… ３５

Ⅰ　開催概要

（１）　全国川サミットとは

一級河川と同じ名称または一級河川の流域にある全国の自治体が、「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを活かしながら、川と共存するまちづくりを進めることを目的に、加盟自治体が持ち回りで開催しています。

平成４年富山県庄川町（現砺波市）で第１回サミットが開催され、今回で２３回目となりました。

全国川サミットのこれまでの開催地

開催回	開催地	開催テーマ
第１回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぶ
第２回	北海道鵡川町	きらめきリバータウン　～川と人の未来を求めて～
第３回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり ～川は命、未来の子供たちへ引き継ごう～
第４回	兵庫県加古川市	川は友だち ～ひと・まち・川　ちょっと素敵な物語～
第５回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！　私たち川家族
第６回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第７回	宮崎県北川町	思い出いっぱい　不思議がいっぱい ～川を彩るホタルの光が子供たちへの贈り物～
第８回	愛媛県肱川町	21 世紀へのメッセージ ～それは川から始まる～
第９回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ～ちょっと素敵な川家族～
第１０回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう　川の未来　水の未来～
第１１回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわい川 ～都市の中の川を考える～
第１２回	岡山県加茂川町	森と川が伝える　ふるさとからのメッセージ ～水は生命の源～
第１３回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！　河川環境
第１４回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川５０年～
第１５回	岐阜県揖斐川町	川面に暮らし　川とともに生きる
第１６回	東京都江戸川区	川の恵みとその脅威
第１７回	群馬県みなかみ町	川を活かしたまちづくり・川と交流
第１８回	秋田県横手市	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第１９回	兵庫県加古川市	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第２０回	新潟県長岡市	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第２１回	茨城県取手市	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第２２回	長野県川上村	流域文化に学ぶ
第２３回	千葉県香取市	歴史から学ぶ川と私たちの暮らし

（２）　香取市開催の意義

平成４年から始まった全国川サミットは、平成２６年に２３回目を迎え、千葉県香取市で開催されることとなりました。

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接しています。東京から 70 km圏にあり、世界への玄関、成田空港から 15 km圏に位置しています。北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には関東一の米産地を誇る水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。

日本の原風景を感じさせる田園・里山や、水郷筑波国定公園に位置する利根川周辺の自然環境をはじめ、東国三社の一つ「香取神宮」、江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在もその姿を残し、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されるなど、水と緑に囲まれ、自然・歴史・文化に彩られたまちです。

毎年夏と秋にこの町並みで開催される佐原の大祭は江戸時代から約 300 年続く祭礼で国の重要無形民俗文化財に指定されております。

一方、先の東日本大震災により利根川周辺約 3500ha が液状化し、かつてない災害を経験しました。これまで市民一体となり力をあわせて復興への取り組みを重ねて参りました。

今回の全国川サミットは、「歴史から学ぶ川と私たちの暮らし」をテーマに、利根川水運の発達により、賑わいをもたらした街の歴史を顧みて、私たちの暮らしと河川の恩恵を再認識するとともに東日本大震災で大きな被害を受けた歴史的町並みなどの復興をお伝えしながら、川について皆様と共に考え、さらなる連携を深めることを目的として開催しました。

○第２３回全国川サミット in 香取

開催日

平成２６年１０月１０日（金）～１１日（土）　（２日間）

会場

水の郷さわら、与倉屋大土蔵

主催

全国川サミット連絡協議会、香取市（第２３回全国川サミット in 香取実行委員会）

協賛

千葉県河川協会、利根川治水同盟千葉県支部

後援

国土交通省関東地方整備局、千葉県、利根川舟運・地域づくり協議会、
（一社）関東地域づくり協会、佐原商工会議所、香取市商工会、水郷佐原観光協会、
水郷小見川観光協会、NPO まちおこし佐原の大祭振興協会、
NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会、佐原青年会議所

■ 参加自治体紹介

［ 1 ］ 秋田県　横手市（よこてし）

増田の町並み

雄物川

秋田県の南部に位置する横手市は、平成 17 年 10 月の 8 市町村合併により人口が秋田県下第 2 位の都市となりました。

横手盆地の中央に位置し、横手川と流域面積全国 13 位の「雄物川」が貫流しています。雄物川の河川公園は、平成 21 年度に国土交通省の「川の通信簿」で最高評価となる 5 つ星を獲得しました。

増田地区の町並みは、明治初期から戦前にかけて建てられた当時の情景をとどめており、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

農業は横手市の基幹産業であり、「あきたこまち」、「りんご」、「山内いものこ」、「ホップ」、B-1 グランプリでゴールドグランプリを受賞した「横手やきそば」など食においての横手ブランドが揃っています。

［ 2 ］ 茨城県　取手市（とりでし）

小堀の渡し

とりで利根川大花火

取手市は、茨城県の南端部に位置し、南を「坂東太郎」と呼ばれ親しまれた一級河川「利根川」、北から東をその支流の「小貝川」が流れ、江戸時代には高瀬舟が行きかい、江戸への舟運の要衝として栄えました。また、水戸街道の宿場町として、人・物資・文化の交流で賑わいを見せていました。

首都圏から約 40 ㎞、時間にして約 40 分という交通の利便性に恵まれた位置にあることから、昭和 40 年代からの高度経済成長期には、大規模住宅開発により人口が増加し、首都圏のベッドタウンとして発展してきました。常磐線快速や地下鉄千代田線が取手駅まで乗り入れ、茨城県の南の玄関口となるなど首都圏近郊でありながら、豊かな水と自然に触れ合える都市となっています。

［ 3 ］ 群馬県　みなかみ町（みなかみまち）

谷川岳一ノ倉沢

利根川でのラフティング

みなかみ町は、谷川岳をはじめとする上越国境の山々に抱かれ、その雄大な自然から生じた生命の水をおくる「水と森を育む利根川源流の町」であり、首都圏の水瓶として利根川流域 3,000 万人の生命と暮らしを支える重要な責務を担っています。日本一流域面積の大きな川「坂東太郎（利根川）」と赤谷川の河岸段丘に沿って発展してきたみなかみ町。谷川岳の「一ノ倉沢・マチガ沢」に代表されるような国内第一級の山岳地や森林、清らかな水が流れ、蛍が舞う美しい田園、町内各地に湧き出る豊富な温泉などの大自然を地域の資源として活かしつつ、交流を通じて基幹産業の観光業と農業を活性化する、まちづくりに取り組んでいます。

［ 4 ］ 東京都　江戸川区（えどがわく）

江戸川区全景

江戸川区花火大会

江戸川区は東京都の東端部に位置し、西に荒川、東に江戸川など 7 つの一級河川と海に囲まれた水辺環境の豊かなまちです。全国の親水公園の先駆けとなった古川をはじめ、区内には総延長 27㎞ の親水公園、親水緑道が流れ、潤いのある快適な都市空間を実現しています。その豊かな水辺を舞台に、第 11 回サミット（in 江戸川）、第 16 回サミット（in 荒川）を開催するなど、川とのふれあいや自然環境の保全・創出に努め、新たな都会の水辺環境を創出しています。一方、災害に強い江戸川区を目指し、区民の皆さんと協働でスーパー堤防整備などの治水対策にも積極的に取り組み、安全で安心なまちづくりを進めています。

［ 5 ］ 新潟県　新潟市（にいがたし）

新潟市街地と信濃川

新潟市の田園

新潟市は、日本一の大河「信濃川」とそれに次ぐ水量をもつ「阿賀野川」の二つの母なる川から育てられ、水辺と共に歩み、古くから湊町として栄えました。世界に開かれた都市、東アジアに向き合う日本海拠点都市として、2007 年 4 月に本州日本海側初の政令指定都市に移行しました。

本市は、整備された高速道路網や上越新幹線により首都圏と直結しているなど、陸上交通網が充実しているほか、国際空港・港湾を擁し、国内主要都市と世界を結ぶ本州日本海側最大の拠点都市として高次の都市機能を備えています。一方で、国内最大級の水田面積を持つ大農業都市でもあり、両大河により形成された「越後平野」は、米や野菜、果物、畜産物などの一大産地となっており、食料自給率 63%という高水準を支えています。また、ラムサール条約登録湿地である佐潟や福島潟、鳥屋野潟といった多くの水辺空間や里山などの自然に恵まれています。

［ 6 ］ 新潟県　長岡市（ながおかし）

信濃川と長生橋

長岡まつり大花火大会

長岡市は、日本一の大河・信濃川が市内中央をゆったりと流れ、福島県境近くの守門岳から日本海まで市域が広がる人口 28 万人のまちです。平成 17 年度に 9 市町村、平成 21 年度に 1 町と合併し、長岡まつりや山古志の牛の角突き、寺泊の海の恵み、四季折々の自然など、個性ある 11 の地域の魅力が輝いています。平成 16 年の中越大震災をはじめとした幾多の災禍に遭いながら、長岡の人とまちは「米百俵の精神」で立ち上がってきました。「前より前へ！長岡　人が育ち地域が輝く」を合言葉に、「市民力」、「地域力」、そして「市民協働」の力を活かし、シティホールプラザ「アオーレ長岡」、「子育ての駅」など全国にさきがけた人づくり、まちづくりを進めています。

［７］ 長野県　川上村（かわかみむら）

レタス畑

千曲川の源流

川上村は全村が標高 1,100 メートルを超える高所にあり、千曲川（信濃川）源流の清らかな水と冷涼な気候条件に恵まれた高原野菜産地です。かつては島崎藤村が千曲川のスケッチの中で、「白米は唯病人に頂かせるほどの、貧しい、荒れた山奥の一つである」と記したほどの、隔絶された大変貧しい地域でありました。

長い間の自給目的の主穀（雑穀）栽培農業に、昭和 11 年の小海線の開通が大きな変革をもたらし、出荷野菜として白菜の栽培が始まり、キャベツ、大根を組み合わせた農業を経て、昭和 20 年代半ばからはレタスが試作導入されました。その後、日本人の食生活の変化とともに、県営パイロット事業等の基盤整備事業に積極的に取り組み、生産量日本一であるレタスをはじめとした高原野菜産地を築きあげてきました。近年では、各種スポーツイベントを活用した野菜消費キャンペーンやレタスの海外輸出のほか、後継者の支援を目的とした新婚住宅の建築、訪問看護の充実など新たな村づくりが始まっています。

［８］ 岐阜県　揖斐川町　（いびがわちょう）

徳山ダム

揖斐川マラソン

揖斐川町は、岐阜県の最西部に位置し、北側は福井県、西側は滋賀県と接しています。総面積８０３．６８平方キロメートルのうち森林が９１パーセントを占める緑豊かな町です。町の中心を流れる揖斐川の最上流部には、日本一の貯水容量を誇る徳山ダムあります。徳山ダムは流域の住民を水害から守り豊かな水の恵みを下流へと届けています。ダム湖周辺の山々は四季折々の姿をみせる風光明媚な場所としても観光客からも人気があります。濃尾平野の最北端にあたる町の南部地域は、なだらかな傾斜と水はけの良い地質がお茶の栽培に適しており、特産の「いび茶」の産地となっています。

また、今も多くの歴史が残る揖斐川町には、西国三十三ヵ所巡りの最終札所「谷汲山華厳寺」や美濃の正倉院と呼ばれる「両界山横蔵寺」など、多くの寺社仏閣があり年間を通して多くの参拝客が訪れます。

秋に行われる町をあげてのスポーツイベント「いびがわマラソン」は、コースの景観と沿道の応援がランナーに定評で毎年１万人を超えるエントリーがあります。

来年秋には全国育樹祭が本町で行われることが決定しており、山や川など自然を活かした町づくりが進められています。

［９］ 福島県　喜多方市（きたかたし）

飯豊連峰と菜の花

会津塩川バルーン
フェスティバル

喜多方市は、福島県北西部、会津盆地の北部に位置し、北西に飯豊連峰の雄大な山並み、東に磐梯山を望む雄国山麓、平地部には田園風景が広がる豊かな自然に恵まれた風光明媚なまちです。

市内には、良質な水と米を原料とした酒造業や、桐材加工・漆器など伝統産業が息づいています。

100 軒を超えるラーメン屋が軒を連ねていて「ラーメンのまち」として知られているほか、市内各地で「そば」も栽培されており、地域ごとに特色のあるそば文化が育まれています。

市内を歩けば昔ながらの蔵が街並みに溶け込んでいるほか、国県の重要文化財に指定されている文化財も多数存在しているなど、自然・伝統・文化にあふれたまちです。

また、花でもてなす観光きたかたとして、三ノ倉スキー場の 6.5ha 200 万本のひまわり畑は東北一と言われています。

［１０］ 茨城県　潮来市（いたこし）

水郷潮来あやめ園

宵の嫁入り舟

潮来市は茨城県東南部に位置し、北は行方市、南は神栖市、東は鹿嶋市、西は千葉県香取市に面しています。東西が約 12 キロメートル、南北が 13 キロメートルにあり、北部には海抜約 30 メートルから 40 メートルの行方大地が南北に続いています。東部は北浦に面し、西部は霞ヶ浦と北利根川、南部は外浪逆浦というように、水辺に囲まれた自然豊かなまちです。

気候は、四季を通じて穏やかで、夏涼しく冬穏やかな海洋性の気候となっています。

水郷潮来に初夏の訪れを告げる「水郷潮来あやめまつり」では、伝統の嫁入り舟や手漕ぎのろ舟遊覧が特に人気を博し、平成 26 年度は 85 万１千人の観光客が水郷情緒とあやめを鑑賞するため訪れました。

［１１］ 茨城県　稲敷市（いなしきし）

横利根閘門

ふな釣り大会

稲敷市は、茨城県の南端部、首都東京から約 60ｋｍ圏に位置し、稲敷台地と霞ヶ浦、利根川、新利根川、小野川などの豊かな水辺環境や温暖な気候にも恵まれ、広大な田園風景が広がる県内有数の穀倉地帯として知られています。

北側には国際的な研究学園都市「つくば」、南側には世界への玄関口である「成田」を擁する位置関係にあり、これらの広域核都市と圏央道で結ばれることにより、首都圏域の流通拠点としての期待が高まっています。

また、主要な産業は農業で、贈答品等で全国的にも有名な「江戸崎かぼちゃ」、霞ヶ浦湖畔の浮島地区が一大産地の「浮島れんこん」、もちもちとした食感が人気の「ミルキークイーン」等四季折々の旬な農産物が自慢です。

最近では、米どころであるところを活かし、あげ餅による地域おこしに取り組んでおり、毎年２月に開催される「あげ餅自慢大会」には県外からも多くのお客さんにお越しいただいています。

［１２］ 茨城県　美浦村（みほむら）

上空から湖岸を望む

木原城址城山公園

美浦村は、紫峰筑波山を望む霞ヶ浦南岸に位置し、名のように美しい環境のもと、競走馬の里として名高いＪＲＡ美浦トレーニング・センター、国史跡「陸平（おかだいら）貝塚」などがある、自然と歴史が豊かな所です。また安全で良質な農産品、霞ヶ浦でとれた水産品なども有名です。

地理的には、つくば研究学園都市や成田に近く、これらの中核都市や首都圏を結ぶ道路として整備が進む首都圏中央連絡自動車道や常磐自動車道の接続にも便利なまちです。

こうした環境を生かし、太古から育んできた湖岸文化を守り、新しい時代の風を敏感に感じながら、美浦村に住んでも、学んでも、働いても、遊んでも「みほって　いいな～」と思えるまちづくり、村民参加による村民協働のまちづくりを推進しています。

［１３］ 千葉県　銚子市（ちょうしし）

犬吠埼灯台

銚子みなとまつり

銚子市は、東京から 100ｋｍの距離にあり、関東平野の最東端に位置しています。北は利根川を隔て茨城県の神栖市に対し、東から南は太平洋に臨み、利根川沿い北西方面は東庄町と、太平洋側南西方面は旭市と接しています。

沖を流れる暖流・寒流の影響を受け、夏は涼しく冬は暖かい気候です。

三方を水に囲まれ、利根川河口から君ケ浜、犬吠埼、屏風ケ浦に至る海岸線は、砂浜あり、岬あり、断崖絶壁ありと、変化に富んだ雄大な景観美を織りなしています。

また、全国屈指の水揚げ量を誇る銚子漁港、歴史と伝統を実感できる醤油工場、さらには、これらの産業基盤から産出される豊富で新鮮な食材や特産品を備えるなど、多くの地域資源に恵まれた魅力あふれるまちです。

［１４］ 千葉県　我孫子市（あびこし）

手賀沼の風景

手賀沼花火大会

千葉県我孫子市は、海抜約 20m、南北延長は最長部で約 4km、東西延長約 14km、面積はおよそ 43.19 平方 km です。地理的には千葉県の北西部に位置し、東に印西市、南と西は手賀沼を隔て柏市があり、北は利根川をはさんで、茨城県取手市・北相馬郡利根町と隣接し、手賀沼と利根川にはさまれた細長い馬の背状の土地となっています。

昭和 30 年 4 月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和 45 年 7 月に市制をしきました。豊かな水と緑に恵まれ、都心から約 40km、常磐線で 35 分の近距離にあることから、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割がおおきくなっています。

［１５］ 千葉県　栄町（さかえまち）

商家の町並み 房総のむら

SAKAE リバーサイド
フェスティバル

栄町は、千葉県の北部、利根川流域に位置し、東は成田市、西は印西市、南は印旛沼、北は利根川をはさんで茨城県に接し、東京都心より 45km 圏内に入り、成田国際空港へは約 10km のところに位置しています。町は、東西に約 12km 南北に約 5km の東西に細長い地形で、東部は一帯が高台で、山林、畑が多く、南部および西北部は平坦で豊かな水田地帯が広がっています。

町には「龍」伝説に彩られた千葉県最古の龍角寺や国指定重要文化財銅造薬師如来座像、国指定史跡龍角寺古墳群や日本一の規模を誇る方墳の岩屋古墳、房総の歴史が学べる千葉県立房総のむらなどがあります。また町を囲むように流れる利根川や長門川などの水辺では、釣りやジェットスキーなどのアウトドアレジャーが盛んで、歴史や水と緑に恵まれたまちです。

［１６］ 千葉県　神崎町（こうざきまち）

発酵の里こうざき酒蔵まつり

こうざき船着場バス釣り大会

神崎町は、東京の東約６０ｋｍ圏にあり、千葉県の北端中央部に位置し、東は香取市、西と南は成田市に接するとともに、北は利根川を挟んで茨城県稲敷市と対峙しています。江戸時代は、利根川水運の河港として栄え、昭和３０年に旧神崎町、旧米沢村が合併して、新生神崎町が誕生し現在に至っています。

町の南部は、なだらかな丘陵地帯で形成され、北部の利根川沿いには肥沃な沖積低地がひらけています。近年は大規模な宅地造成や道路整備も進み、緑ある自然環境と恵まれた歴史風土の上に、調和のとれた「自然と人とふれあいまち」を形成しています。

［１７］ 千葉県　香取市（かとりし）

歴史的町並みと小野川

水郷おみがわ花火大会

香取市は、千葉県の北東部に位置し、北部は茨城県と接しています。東京から 70 km圏にあり、世界への玄関、成田空港から 15 km圏に位置しています。北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には関東一の米産地を誇る水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地で北総台地の一角を占めています。

日本の原風景を感じさせる田園・里山や、水郷筑波国定公園に位置する利根川周辺の自然環境をはじめ、東国三社の一つ「香取神宮」、江戸時代から昭和初期に建てられた商家や土蔵が現在もその姿を残し、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されるなど、水と緑に囲まれ、自然・歴史・文化に彩られたまちです。

Ⅱ　実施内容

【第１日目】
１０月１０日（金）

会場：水の郷さわら、与倉屋大土蔵

①　全国川サミット連絡協議会総会
②　首長サミット
③　全国川サミット in 香取開会式
④　児童生徒研究発表
　・山倉小学校「山倉の鮭祭りと鮭の放流」
　・佐原中学校「七草堤防プロジェクト」
　・講評　東京大学大学院農学生命科学研究所　根本正之氏
⑤　伊能忠敬記念館視察
⑥　アトラクション「おみが和よさこい会　和気藹藹」

○水の郷さわら

水の郷さわら多目的研修室で全国川サミット連絡協議会総会・首長サミットが開催されました。

道の駅「水の郷さわら」は千葉県の北東部、水郷筑波国定公園に指定された雄大な景観を楽しむことができる、香取市佐原の利根川の川辺にあります。

豊かな水と緑に育まれた「水郷佐原」の風土は、佐原小唄でも「佐原よいとこ水の郷（さと）」と唄われており、名称の由来となりました。

隣接して観光船乗り場やプレジャーボート等の係留桟橋、大型車駐車場、レンタサイクル、レンタルボートもありますので、利根川周辺の観光拠点としてご利用いただけます。

①　全国川サミット連絡協議会総会

香取市にある水の郷さわらを会場に、参加自治体の代表者が出席し、全国川サミット連絡協議会総会が開催されました。

以下の報告事項及び協議事項について審議され、すべて満場一致で承認されました。

なお、今後の全国川サミット開催予定については、平成２７年度第２４回全国川サミットの新潟県新潟市開催が確認され、さらに平成２８年度第２５回全国川サミットを福島県喜多方市で開催することが承認されました。

＜次第＞

○会長挨拶　香取市長　宇井　成一
○来賓祝辞　国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長　五十嵐 崇博 氏
　千葉県　県土整備部長　永田　健 氏
○来賓紹介　国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長　五十嵐 崇博 氏
　国土交通省関東地方整備局河川保全管理官　酒井 義尚 様
　国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所長　中村 徹立 氏
　国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所副所長　竹本 隆之 氏
　千葉県　県土整備部長　永田 健 氏

○参加状況報告
○議事

［報告事項］
・第１号　第２２回全国川サミット in 川上　事業報告について
・第２号　第２２回全国川サミット in 川上　収支決算について

［協議事項］
・第１号　第２３回全国川サミット in 香取　事業計画（案）について
・第２号　第２３回全国川サミット in 香取　収支予算（案）について
・第３号　第２３回全国川サミット in 香取　共同宣言（案）について
・第４号　今後の全国川サミット開催予定について

＜会長挨拶・来賓祝辞＞

千葉県香取市長　宇井 成一

国土交通省水管理・国土保全局
河川環境課長　五十嵐 崇博 氏

千葉県土整備部長　永田 健 氏

総会の様子

② 首長サミット

＜国土交通省講演＞
国土交通省　水管理・国土保全局
河川環境課長　五十嵐 崇博 氏

「最近の河川行政報告」

■災害

A．平成２６年の状況

◆台風

・現在台風１９号が発生している。平成１６年には、１０個の台風が本島に上陸して騒がれた。今年は例年並みになっている。

・最近は、スーパー台風が発生している。原因は、海水面の温度上昇。

◆７月　長野県南木曽町梨子沢における土石流災害

・大変な雨が降って土石流になった。

・国のダム２つと県のダム１つがあったが、それらを乗り越えて市街地に土石流が入った。

・交通の要所でＪＲ中央本線は、橋が流されて１ヶ月位不通になった。国道１９号も通行止め、県道も橋の上に大きな石があり使えない状況だった。そのため国で持っている仮橋を県道の上に施工。

・緊急的に左岸に大型土のうを積み、右岸に巨石や大型ブロックを置く措置をした。

・避難勧告の解除の基準を作るために県・町・専門家が入った協議会を組織した。場所が山の為、通常の避難勧告の基準より厳しく作成した。実際の雨を経験して土石流が起こらなかったら基準を緩めていく。首長１人が避難勧告の判断をするのは、大変なので専門家を交えながら判断する体制が重要。

◆８月　広島県広島市における土石流災害

・３時間で１ヶ月分の雨が降り、大変な被害が出た。

・道路の土砂を取り、土のうを積むなどの応急復旧をした。

■河川環境の改善

・コウノトリ野生復帰推進協議会…川だけの線での整備ではなく、流域を含めた面の整備が重要。

・関東地方でも荒川・利根川で流域を含めたネットワーク化を進めている。

・水辺の楽校プロジェクト…水辺を体験学習の場として利用。

・参加自治体と一緒に水辺を安全に使っていけるような場にしていきたい。リーダーシップを持って取り組みをしていただきたい。

■川づくりの民間化

・川の民間開放について積極的に取り組んでいきたい。

・地域が元気になるアイデアを自治体発信で出してもらいたい。

＜首長意見交換＞

参加自治体の代表者から、「川を活用したまちづくり」などについて意見交換が行われました。

主な内容は以下のとおりです。

☆ 千葉県香取市　宇井 成一 市長

歴史から学ぶ私たちの暮らしが メインテーマとなっておりますので、これらを踏まえ、川を活用したまちづくりの取り組み事例について、ご紹介させていただきます。

香取市は、平成 18 年 3 月に 旧佐原市と小見川町、山田町、栗源町が合併して 香取市になりました。

香取市は関東一の米の産地で、両総用水や北総東部用水など、利根川から水の恩恵を受けております。また、その他市を代表する農産物にさつまいもがありますが、でんぷんや焼酎など加工用の「いも」を除くと、日本一の産地になります。

利根川支流の小野川周辺の歴史的な町並みが「おもてなし」の心が伝わる観光地として発展し、現在は 年間約 50 万人の観光客が訪れるようになりました。

日本で初めて実測日本地図を作成した伊能忠敬翁の旧宅も、地区内に国指定史跡として残っています。

また、総会会場であります「水の郷さわら」は、地元産新鮮野菜の直売所がある「道の駅」と船着き場があり、利根川で舟遊びができる「川の駅」が併設した複合施設で、平成 22 年 3 月に開業し、年間 120 万人以上の買物客や観光客で賑わっています。関東道の駅アワード 2014「プレミアム 30」にも選ばれました。

先の東日本大震災では、歴史的町並みも含め、香取市内では 約 6000 棟の建物が被災し、約 200 億円の公共施設被害を受けるなど 甚大な被害がありました。
昨年末で概ね災害復旧工事が完了し、観光入込客はようやく 震災前の水準に戻ったところです。

利根川は、暮らしに多くの恵みと災いをもたらし、生活に深く関わって参りました。少子高齢化をはじめ、行政を取り巻く環境は複雑多様化しておりますが、将来にわたって発展を目指すため、先人たちの取り組みに学ぶべきことが多くあると考えます。

香取市においても利根川舟運の発達により、賑わいをもたらした街の歴史を顧みて、これからのまちづくりに繋げる必要があると考えております。

☆ 秋田県横手市　佐藤 亮 建設部次長

横手市は、秋田県の南部真ん中に位置しており、市の中を雄物川が流れています。雄物川には、河川公園がありバーベキューをしたり、子供たちが遊んだりと賑わっています。

雄物川には横手川などいくつかの支流があります。横手川では、全国線香花火大会が行われます。また横手川の土手の方には紫陽花回廊があり、紫陽花の植栽をしながらボランティアの方々が河川のクリーンアップなどを行っています。

また、山の方に行きますと河川が細くなりますのでそこでは水がない時期がでてきます。そういう時期には地域の親子連れが計画をしてイワナのつかみ取り、水を利用した水車を作ってそば打ちをしてそばを食べるというような活動を行っています。

横手市は、かまくらや焼きそばで有名になっています。しかし、雪の多い所でここ４年ほど雪に悩まされています。全国各地からボランティアの方々あるいは国や県、重機を借りたりしながらなんとかして参りました。市のいたる所に流雪溝、融雪溝があり半分くらいは地下水をくみ上げながら流していますが、もう半分は川の水を利用しながら溶かしてまた川に返すということを県や国と協議しながら行っています。雪の暮らしの中から来た身としましては、川というものが雪を克服することに役立っているということを皆さんに申し上げたいと思います。

☆ 茨城県取手市　藤井 信吾 市長

取手市でも第２１回全国川サミットを開催しております。

利根川下流の１８市町村で利根川舟運・地域づくり協議会を作りまして舟運と地域の情報交換と交流をさせていただいています。

取手市は、我孫子市と対岸の東京へのベッドタウンということですが、川に関しまして国土交通省の河川事務所が３つあります。利根川上流河川事務所、利根川下流河川事務所、下館河川事務所と川とは非常にご縁があります。また、川に関係して伊奈半十郎が徳川家康の命を受け様々な新田開発を行いました。関東三大堰の岡堰という所にキリンビールが来ていただいたりしています。

取手は、利水や治水ということの他にも川を皆様の健康増進のために使っていこうと取り組んでいます。国土交通省や皆様からのご支援をいただいております。

☆ **群馬県みなかみ町　鈴木 伸一 まちづくり交流課次長**

みなかみ町は、利根川の支流の赤谷川沿いに発電や揚水などの機能を持つ５つのダム湖を有しています。それぞれのダム湖は本来の機能だけでなく、観光資源という面も持っております。ダム湖では、以前から釣りのお客様や新緑等を楽しむお客様がたくさんみえておりましたが、最近では若者を中心としたダム湖を利用したカヌー、利根川の激流を下るラフティングなどのアウトドアスポーツを楽しむお客様が大変増えております。それで益々重要な観光資源となっています。

利根川の清流と寒暖差を利用したお米も大変美味しい所です。町では、お米のＰＲも行っています。

みなかみ町は、利根川の恩恵を受けて発展してきましたが、源流の責任としまして川を活かすだけではなく守っていかなければならないと思っています。アウトドア連合会の方々と春の川開きに合わせて河川の清掃活動を行っています。このように目に見える形で川の恩恵を受けている方だけでなく、恩恵が目に見えない一般の方々も一人一人が源流を大切にしなければならないということで、保全に繋がる些細な行動を起こしていくことが大切だと思っています。

☆ **新潟県新潟市　山口 英樹 副市長**

新潟市は、信濃川と阿賀野川の２つの大河が合流しています。歴史ということになると、一つが新潟の川湊ということで舟運と海運で港町として栄えてきました。もう一つの歴史としましては、川との戦いの歴史です。新潟市は、水田面積が全国の市町村で一番多いという状況です。司馬遼太郎の「街道を行く」の中で地図にない湖といわれた新潟でございまして、地名も潟と付きますので、本当に沼田とか泥田とそういった所を治水の事業、農地の土地改良を行って水田に変わってきました。舟運という形で恵みをもらってきましたが、同時に非常に多くの災害もございました。そういった水との戦いの中で今の新潟が作られてきたと感じております。

新潟市の多くの市民が誇りに思っているのがやすらぎ堤と言っている北陸地方整備局にご尽力いただきまして、信濃川の左岸、右岸に５割勾配の護岸整備をしております。東日本大震災を受けて更なる耐震化工事までやっていただき、大変綺麗な市民の憩いの場となっております。多くの市民がジョギングや散歩、自転車のサイクリングロードとして利用し、４月には市の花チューリップのイベントを行っています。夏には信濃川と阿賀野川で花火を打ち上げます。

新潟市のアイデンティティーは、水と土です。過去に２回水と土の芸術祭というイベントを開催しており、第３回目を来年開催予定です。次の川サミットは、それに合わせて開催しようと考えております。

☆ **新潟県長岡市　中野 一樹 理事**

台風１８号に被災された市町村の皆様に心からお見舞い申し上げます。

河川の適切な維持管理の重要性と整備の必要性を感じております。特に長岡市の場合は、市内の中小河川のほとんどが大河信濃川に流れ込みます。その下流部にあります大河津分水路が特に最下流河口部が非常に狭小ということで現在国の方から事業着手に向けて様々な取り組みをされているところであります。是非とも越後平野を守るための柱ですので国土交通省の皆様から事業の進展をお願いしたいと思います。

長岡市の川を活かした取り組みは、何と言っても花火です。信濃川の川幅が１ｋｍ位あり、非常に広い空間がありますのでそこを活用させていただいております。今有名になっているフェニックスは、市民はもちろん、県内外からお客様が大変来られて迫力ある花火を堪能しています。今年は、６月に国土交通省の方から右岸堤防の強靭化工事をしていただき、そこで新たに約１０ｈａの河川敷ができまして、それを利用しまして４万人の観客席が出来ました。今年は、２日間で過去最高の１０３万人の観客がいらっしゃいました。

また、東日本大震災で被災された宮城県女川町や石巻市に福島県南相馬市の住民３００人を招待しました。姉妹都市であるハワイホノルル市と連携しまして平和と友好の花火を打ち上げるなど長岡の花火を通じて交流しています。

広大な河川敷は、運動公園として各種スポーツ大会や市民の健康づくりに利用されています。堤防は、散策コースとして市民に定着しております。春には堤防に咲く桜などが非常に綺麗で市民を和ませています。長岡市民は、信濃川からたくさんの恩恵を受けております。今後も市民の宝として母なる存在を次世代に継承する取り組みを続けて参りたいと考えております。

☆ **長野県川上村　川上 芳夫 副村長**

川上村は、村の中に太平洋と日本海があり、甲武信ヶ岳という山がございます。ここから流れる水は、一つは荒川となって太平洋に、また一つは富士川と太平洋に、残る一つは川上村が最上流であり日本で最も長い３６０ｋｍの千曲川に注いでいます。

川上村は、農業一色の村でございまして６月から出荷が始まりまして、１０月で出荷が終わります。片付けが終わりますと１１月の下旬頃は土も川も凍り始め、そして半年間休息して来年の４月の芽吹きに備えて力を蓄えるということで、最もこれから半年間良い時期でございます。

水は、昔から命の源でございます。一番源流にある村の責任として綺麗なままで隣の村へ、そしてまた次の世代へ引き継いでいく責任を感じているところでございます。

☆ **岐阜県揖斐川町　長屋 憲幸 総務部政策広報課長**

岐阜県の濃尾平野を流れる３つの河川木曽川、長良川、揖斐川を木曽三川と呼んでいます。揖斐川町は、揖斐川の最上流源流にございます。揖斐川の延長は１２１ｋｍ、合併しまして１２１ｋｍの約半分が揖斐川町になりました。

水辺地域としての誇りと責任、下流域に対する綺麗な水を送り届けるという責務を感じておりまして、森の手入れから河川の清掃まで環境整備に力を入れているところでございます。

また、揖斐川の最上流に日本一の貯水量を誇る徳山ダムが建設されました。そのダム湖周辺の環境につきましても自然環境、野生動物の保全というような様々な取り組みも行っているところでございます。

それから子供たちを交えて野生動物の餌となるドングリなどの広葉樹の実のなる木を植えよう大作戦ということで植樹を行っています。今年度初の試みとして徳山ダムで水陸両用バスを浮かべるという試みも考えています。揖斐川マラソンが２７回開催されています。紅葉を見ながら揖斐川上流の沿線を走るということで、非常にランナーに喜ばれています。揖斐川町では、川を通じた様々なイベントを行っています。

☆ **福島県喜多方市　山口 信也 市長**

喜多方市は、日本海に注ぐ阿賀野川、福島県では阿賀川と呼んでいますが、その阿賀野川の上流に位置しています。そして喜多方市は、阿賀川・阿賀野川の舟運を通じて日本海、特に新潟との人的・物的交流が盛んに行われていまして地域経済が発展してきた訳であります。これは、川のおかげであります。

また、自然のエネルギーということで注目を集めていますが、阿賀川・阿賀野川はこういった発電の源となっています。それから福島県で唯一の日本ボート協会の公認コースもある荻野漕艇場がございます。これは、シーズンになりますと県内外からの合宿や様々な大会が行われます。また過去の国体ボート競技や市町村交流を担った開催を通じて、平成２０年３月にボートのまち宣言をしました。今回の開催地である香取市と喜多方市は、姉妹都市になっていて友好都市協定を結んでいます。そのきっかけになったのも川のおかげ、ボートのおかげです。

昨年の７月に集中豪雨がございました。国におかれましては、直ちに激甚指定をいただきました。開通まで３５年かかった大規模林道があるのですが、そこが寸断され大変な豪雨災害を受けました。その際にいち早く国土交通省の阿賀野川河川事務所から林道なので仮設橋を設置したらどうかと話がありました。ただ地形上できませんでしたが、本当にありがたいことでした。それから、今年も大変な豪雨が喜多方市内の塩川町に排水が集中しました。床下浸水の直前に、国土交通省から排水ポンプを手配していただきこれが威力を発揮しました。おかげさまで被害を回避していただいた訳であります。

☆ **茨城県潮来市　磯山 義之 観光商工課長**

潮来では、川を利用した観光を毎年５月下旬から６月下旬にかけ潮来市最大の観光事業であります水郷潮来あやめまつりが行われます。このあやめまつりが行われている中でお客様に好評をいただいているものに潮来市の商工会青年部が運営する昔ながらに船頭さんが手で櫓を漕いで進むろ舟の遊覧船というものがございます。昭和５８年に当時の商工会青年部の面々が、昔ながらの舟を復活させ川めぐりをやろうと町おこしのために動き出しました。舟そのものは、すぐに調達が可能でございました。しかしながら、肝心の櫓は、誰も使う人もいなくなっており農家を一軒一軒訪ね歩き、納屋で眠っている櫓を探し譲ってもらうところから始まったそうです。今では、あやめまつり期間中には１万人を超える方々がこの遊覧船を利用していただきまして貴重な観光資源となっているところでございます。

また歌にも歌われました潮来花嫁さんそちらによります嫁入り舟も大変好評をいただいてございます。この舟に乗るお嫁さんですが、モデルなどは一切使ってございません。一般から広く公募を行いまして本当の花嫁さんに乗っていただくようになっております。今では、出身地が北海道や九州という花嫁さんもいらっしゃいます。この嫁入り舟の運営も商工会青年部の方々にご協力をいただいて運営されているところでございます。このように潮来市は、前川や北利根川をはじめ、商工会、観光協会、大勢の市民のボランティア、全国から来ていただく花嫁さん含めまして大勢の皆様方の協力と川の恵みによりまして水郷潮来あやめまつりを開催している状況でございます。

☆ **茨城県稲敷市　糸賀 一典 企画課長**

稲敷市は、香取市から利根川を挟んで北西側に位置します。北は霞ヶ浦、南は利根川、東は横利根川に接しまして広大な水田風景が広がる水と緑に囲まれたまちになります。人口は約４万３千人、そしてゴルフ場は９つあります。圏央道の稲敷インターと稲敷東インターの２つを有しております。古くから舟運が栄えているところでございまして、主要な産業は農業です。昔河川だった干拓地もたくさんあります。市の名前に稲という文字がついているように米作りが大変盛んで、中でもあずまミルキークイーンは、もちもちとした食感が人気の稲敷市の特産品です。その他、霞ヶ浦沿いで取れる浮島れんこん、そして贈答品として知られます江戸崎かぼちゃなどが有名です。また、週末は多くの釣り客が訪れます。毎年６月に開催されるふな釣り大会は、新利根川・横利根川をはじめとした市内全流域を釣り場として、市内外多くの釣り愛好家が腕を競い合い大変盛り上がるようになっております。また最近、８月に行われるいなしき夏まつり花火大会が密かに有名になってまいりまして小野川で約１万２千発の花火が打ち上げられ、約２０万人の観客が訪れるといわれております。是非、稲敷にお出でいただきたいと思います。

☆ **茨城県美浦村　中島 栄 村長**

以前、霞ヶ浦の堤防が無いときは、増水で田んぼ、今の１２５号旧道の下までは大水が来ておりましたけれども、堤防を作って水瓶として県南の筑波をはじめ多くの方々に飲料水を提供しております。霞ヶ浦の水はあまり水質が改善されないということで那珂川と霞ヶ浦の導水事業をやっと今年再開するという運びになりました。多分、国の考えの中で霞ヶ浦の水質を良くするためには、これが１番ということでこの発想になったものだと思います。ただ、那珂川の上流の漁業者との関わり合いが確かにありますが、早めに実現をしていただいて霞ヶ浦の水を改善していただければもっと人が集まり、観光もレジャーも楽しんでいただけると思っています。

今、土浦市と商工会議所が１つとなって水陸両用バスを運転していますが、西浦側の９市町村が一緒になってやればもっと霞ヶ浦を知っていただけると思います。そして２０１９年には、茨城国体があります。２０２０年にはオリンピックがあります。是非この自然の霞ヶ浦を皆さんに知っていただきたいと思います。

☆ **千葉県銚子市　越川 信一 市長**

香取市の約４０ｋｍ河口に行って太平洋に注ぐ所が銚子市になります。群馬県のみなかみ町から発した水が銚子まで流れていくと思うとどれ位の日にちをかけてやって来るのかなというように思いました。何とかこの川の道を観光のコース、あるいは遊覧船を走らせることができないか考えております。

銚子は、海の観光が有名でございまして、まだまだ利根川を活かしきっていないと感じています。元々銚子は、江戸時代に東北のお米を江戸へ運ぶその中継基地として利根川水運によって栄えたまちでございました。

また、平成２４年に銚子大橋が架け替えられまして延長１４５０ｍということでウォーキングコースに非常に良い長さということで今賑わっております。この大橋の近くに河岸公園を整備いたしました。船着場も設けられておりますのでもっと川の観光クルージングといったことを出来ないかと考えております。また、河岸公園では、毎年８月に灯篭流しが行われ夏の風物詩となっております。海では、イルカウォッチングが非常に盛んでございますので、ここをリンクさせていきたいと思います。

銚子は、水揚げで日本一のまちでございますけれども、第１魚市場が来年の３月に完成することになりますのでここを大いに売り出していきたいと思っております。

毎年１１月に慶応大学ボート部が埼玉県の戸田からボートを漕いで銚子までやってきます。銚子遠漕というふうに名付けまして約１００名のボート部員が荒川、利根川と４泊５日で銚子まで来てまた漕いで帰ります。銚子ではこのボート部員達の来場に合わせて歓迎会を開きます。利根川流域の市町村の皆様と協力しながら利根川舟運を活かしていきたいと思います。

☆ **千葉県我孫子市　星野 順一郎 市長**

我孫子市は、北に利根川、南に手賀沼という２つの大きな水辺に囲まれています。西側半分が利根川上流河川事務所、東側半分が利根川下流河川事務所にお世話になりながら、また併せて手賀沼も下流河川事務所の皆様方にお世話になっているところでございます。今、我孫子市ではこの２つの大きな水辺に囲まれて治水、利水両面にわたって市民の皆様に安全と安心のために、そしてまた憩いと潤いを与えるために精一杯努力をしているところでございます。

現在、上流河川事務所の方では後田樋管の改修や田中調整池の改修について大変お世話になっているところでございます。下流河川事務所の方には手賀沼の水質浄化と台風１８号では、大変お世話になりました。また、ポンプ場での手賀沼の水管理によって水害が出ないようにということで非常にお世話になっております。利根川の河川敷に利根川ゆうゆう公園という国交省の水辺プラザの整備事業というものを活用させていただいて完成した大きな公園があります。このゆうゆう公園には、多くの市民の皆さんが様々な形で利用をされています。

また、手賀沼と手賀川周辺につきましても魅力ある地域にしたいということで、我孫子市の他に周辺自治体・国・県と様々な形で協議をさせていただきながら、もっと魅力ある地域にしていこうという取り組みを進めているところでございます。液状化で被災を受けた我孫子市の布佐という地域は、江戸時代は利根川を上って行って、この布佐という所で魚を降ろして江戸の築地へ持っていくということでその日の内に生の魚が食べられるということで河岸のまちでした。利根川沿線ということは、場合によっては水害が、平常時には水を利用した非常に良い生活という両極端を抱える所でございます。治水・利水両面について周辺市町村また国や県ともご理解ご協力いただきながらもっと良い地域づくりを頑張っていきたいと思います。

☆ **千葉県栄町　岡田 正市 町長**

栄町は、長門川、利根川、印旛沼などに囲まれています。町の行事にリバーサイドマラソン、リバーサイドフェスティバルというように水辺と親しむということでリバーサイドとつけました。利根川の河川敷を利用したリバーサイドフェスティバルは、国土交通省に船を出してもらい様々なイベントを行います。

栄町には、スーパー堤防というものがございます。これは、日本で最初にできたものだと伺っております。そのスーパー堤防の中には区画整理をしまして色々な工場が進出しています。

栄町は、利根川に面しており他の参加自他体も川に面しており水害にも悩まされますが、今後のまちづくりの参考にして活かしていきたいと思います。また、皆様のご意見を伺いながらまちづくりに励んで参りたいと思いますので皆様方のご指導をよろしくお願いします。

☆ **千葉県神崎町　石橋 輝一 町長**

神崎町は、利根川水系の肥沃な土壌により数多くの農産物と良質で豊富な水を源とし酒・味噌・醤油等の発酵産業が古くから根付いた町でございます。農業を元に発展した発酵産業は、江戸時代には利根川舟運により賑わいを見せていました。そして現在では発酵の里こうざきを商標登録しまして、まちづくりを進めているところでございます。

利根川は、本町の観光拠点としても活用しており休日には船着場を利用しまして多くの釣り人が利根川に親しんでいるところでございます。また利根川河川敷祭りと神崎寺で行われる火渡り修行を同時に開催したいと考えております。燃え盛る火の中を山伏姿の僧侶が通り抜ける姿は見応えがあり、見学客も家内安全や無病息災を祈願して渡るという行事でございます。町といたしましては、コスモスの花摘みや体験乗船、地元農産物の出展などがあり多くの来場者に楽しんでいただいております。

本町では、今年の４月に圏央道神崎インターが開通いたしました。それに併設いたしまして来春にオープンを予定している道の駅を今整備中でございます。利根川に隣接する道の駅は防災、産業振興の拠点ばかりではなく利根川を活用した舟運による観光事業も進めたいということで計画をしているところでございます。今後とも神崎町では、利根川を活用したまちづくりを今まで以上に進めたいと考えていますので皆様方にはより良い知恵をいただければと思います。

＜総括＞

国土交通省　水管理･国土保全局
河川環境課長　五十嵐 崇博 氏

色々な取り組みをご紹介いただきました。安心しましたのは、川を抱えているそれぞれの自治体でイベントであるとか舟運、舟遊び、散策、サイクリングなどがあり川に背を向けているのではなく川を使ってあげると川も応えてくれるというところがあると思います。

水の音を聴くとα波が出るということですから、そういう感じで自然に触れることによってやすらぎを得るなどいろんな効果があります。今日は力強いネットワークがこれでまた再確認できたと思います。私もこれを持ち帰って来年は是非もっと多くの自治体の方に参加していただくべく広報に努めて参りたいと思いますし、是非皆様方もそれぞれ帰っていただいたらこんな会があるということで、こういうネットワークを広めていきたいと思いますのでまたよろしくお願いします。

○舟での移動、歴史的町並み視察

第２３回全国川サミットin香取記念事業会場の与倉屋大土蔵まで視察を行いながら移動しました。会場までは、舟に乗船いただき下船後は、徒歩により移動しました。東日本大震災で被害を受け、そこから復興した重要伝統的建造物群保存地区に指定されている佐原の町並み、国の重要無形民俗文化財に指定されている佐原の大祭をご覧いただきました。

○与倉屋大土蔵

与倉屋大土蔵で全国川サミット in 香取記念行事が開催されました。

与倉屋は醤油の醸造で隆盛を極めた商家。その醤油蔵が今も現存しています。醤油造りには広いスペースを必要とする事から、明治 22 年に建てられた与倉屋大土蔵は実に 500 畳分。作業場を確保するため柱は最小限にする工夫が施されています。大土蔵を支えるのは「小屋組み」という手法で何層にも張り巡らされた梁にあります。

また、昭和 35 年頃から平成 2 年頃までは政府指定の米蔵として使用され、約 5 万俵もの地元産米が梁の上まで積み上げられていました。なお、土蔵はメンテナンスを実施され現在は、コンサートやイベントなどにも使用。人々の思いに支えられ、蔵は今も生きています。

③　第２３回全国川サミット in 香取　開会式

○歓迎挨拶　　香取市長　宇井　成一

○来賓紹介

○参加自治体紹介

④　児童生徒研究発表

○香取市立山倉小学校「山倉の鮭祭りと鮭の放流」

香取市の山倉地区には、「鮭祭り」と親しみをもって呼ばれている山倉大神のお祭りがあり、そのお祭りの中で山倉小学校の児童たちが交通安全パレードを行っています。

また、山倉小学校では、毎年鮭の放流事業団体から譲り受けた卵を校内で人工孵化させてから成長観察などを行い育てた鮭の稚魚を放流する活動を行っています。この活動により児童たちに環境保全の大切さを知ってもらう機会になったようです。

今回、山倉小学校６年生（髙橋樹七君、中村隼人君、中山力斗君、越川真妃さん、實川琴望さん、髙木星奈さん、林綾菜さん、林瑞希さん）に鮭祭りの内容や学校で取り組んでいる鮭の放流に関して、調べてわかったことを発表していただきました。

○香取市立佐原中学校「七草堤防プロジェクト」

佐原中学校３年生１８８名は、１年生の時から３年間七草堤防プロジェクトに取り組んできました。この学習は東日本大震災の被災から復旧した香取市の堤防にチガヤ等の在来の植物を植え込み、生物の多様性を保ちながら維持・管理を目指していくものです。

この活動は、佐原中学校、利根川下流河川事務所、香取市役所、学識経験者が一体となった全国初の取り組みです。この活動により、生徒たちの堤防や堤防の植物への関心が高まったようです。今回、佐原中学校３年生（雑賀正登君、大堀寛恵さん）に七草堤防プロジェクトについて３年間の活動のまとめを発表していただきました。

○東京大学大学院農学生命科学研究科 根本正之特任研究員の講評

はじめに、山倉小学校の取り組みについて話したいと思います。子供たちは小さい頃から山倉大神の鮭祭りというのは皆馴染みの深いもので楽しんできたのですけれども、その詳しいことはあまり知らなかった。そこでもっと詳しくお祭りの内容について知りたいと思い先生のご指導の下に山倉大神の関係者の方々にアンケートをとり、色々話をしていただきました。資料を集めることはできたのですけれども、やはりこういうものは子供が読める様な物ではなく難しい言葉がいっぱいあります。そういうわからないことがあったのですが、君たちは丹念に辞書で調べて自分たちで積極的にどういうことだったのか調べたということは、素晴らしい経験になったと思いました。それで鮭祭りのいわれとか、儀式の持つ意味について明らかになった訳です。それから、鮭の稚魚の飼育や放流も手掛けていたわけです。実際に水槽で稚魚を飼うといっても、ただ水に入れておけば鮭が大きくなる訳ではないため、鮭の気持ちになってみんながやらないと上手くいかない。失敗もしたと思います。でも、良く頑張って放流できるまでやったと思います。これは、素晴らしいことです。それで、君たちは鮭の大きくなるまでのことを学習した訳ですが、そのスタートとなる卵から産まれたばかりの稚魚を栗山川に放つまで君たちは、鮭のお手伝いをした。これは、素晴らしい経験になったと思います。それで、これからもこの貴重な体験を君たちの後輩たちに伝授してください。そして、長く続けてください。

次に、佐原中学校の取り組みですが、日本らしい自然を復元するというこの取り組みは、全国初であり大変高く評価されるものだと思います。土手をよく見ると目につく草のほとんどが外来植物です。震災後の堤防を修復する際に日本の四季が感じられる郷土の在来野草が生える堤防としてはどうかと利根川下流河川事務所、河川財団、ボランティアの方の考え方と中学校の想いが一致して、この七草堤防プロジェクトがスタートしました。はじめの頃は、先生のご指導の下で科学部が在来野草の種を集め、全員分の苗を用意し、途中の水やりや苗の冬越しは大変だったと思います。粘り強くやって苗を植えられるようにしたことは大変なことだったと思いますが、素晴らしい経験になったと思います。七草堤防プロジェクトの目指すものは、外来植物を抜き取った時にできた穴に在来植物を植えて在来植物に置き換え、生物多様性に富んだ堤防を復元するということであります。地域との共同による堤防作りは、身近な自然の生物多様性を保全する場のみならず、佐原中学校の後輩たちの環境学習の場づくりでもあってこれは大変素晴らしいことです。河川堤防は、日本中にあるわけで佐原中学校と同様の試みがこの第２３回の全国川サミットをきっかけにサミットに参加された首長さんや皆さん方のお力で全国に広がっていくことを願っております。七草堤防プロジェクトは、関心を持った小中学校がやれる範囲でスタートできる利点があります。私は、全国各地の堤防で２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックを目標に各地の子供たちが河川の堤防に日本古来の野草を植え付けてそれで外国から来た人たちをおもてなしする。そういうような活動を是非この第２３回全国川サミットを契機にスタートさせようではありませんか。

栗山川の自然を大切にし、これからも多くの鮭が遡上してくれること、そして堤防からの日本らしい自然の再生が広がっていくことを願っております。

⑤ 伊能忠敬記念館視察

伊能忠敬の人生を年代順に追い、国宝に指定された重要文化財となっている測量器具や正確さと芸術的な美しさを備えた伊能図の数々が展示されている伊能忠敬記念館の視察を行いました。

⑥ おみが和よさこい会 和気藹藹（わきあいあい）

「江戸歌舞伎の名優」初代松本幸四郎生誕の地千葉県北東部に位置する川風と歓喜がとけあう町香取市小見川から生まれたよさこいチームです。大人から子供まで総勢４０名が熱き心を内に秘め、川サミットを盛り上げました。

Ⅱ　実施内容

【第２日目】
１０月１１日（土）

会場：水の郷さわら、与倉屋大土蔵

① オープニング「和太鼓　響」
② 記念講演「歴史的資源・景観を活かしたまちづくり」
　NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 理事長 髙橋賢一氏
③ アトラクション「千葉萌陽高校ダンス部」
　　「千葉萌陽高校茶道部」
④ トークショー「川を語る」柳生博氏
⑤ サミット式典
⑥ 伊能忠敬旧宅公開セレモニー

① オープニング

○和太鼓　響

豊かな栗源の自然を感じさせるその響は、時として静かに、時として高らかに心を打ちます。また、活動を通して青少年の健全育成にも取り組んでいます。

演奏は、特産のベニコマチと市のＰＲを兼ね、市内だけでなく近隣市町村をはじめ遠く県外にも出向き交流を図っています。川サミット２日目のオープニングアトラクションとして力強い演奏を披露していただきました。

② 記念講演「歴史的資源・景観を活かしたまちづくり」
NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会　理事長　髙橋 賢一 氏

佐原の町並みのポイントは、ゆっくり蛇行して流れる護岸です。現在、都市の中でこういう風情のある河川が流れるというのは少ないのではないかと思います。綺麗に曲線を作ってしまったり、直線になったりということでどうしても災害の方が優先する形になる訳ですけれども、香取市ではこういう河川の風景が残っていたということです。それに伴いまして家や柳もそれなりに残っていたということです。

利根川の支流である小野川ですけども、その中流部分の保存についてお話したいと思います。町並み保存ですけども、きっかけはふるさと創生事業です。当時、市民からアイデアを募集し、その中に町並み保存がまちづくりに有効ではないかということで提案があった訳です。しかし中々町並み保存には、結びつきませんでした。なんとか成功したから良い様なものですけども、実に難しい。何故かと言いますと町並みを保存する訳ですから町屋が重要になる訳です。町屋は、個人の所有物です。行政が面で指定を行う訳ですけども、あくまでも個人の所有物を指定するということですから合意形成というのは、非常に重要になる訳です。しかも、３００件、４００件というその人たちの合意を取るっていうのは、中々難しいということです。もし、それが合意でき町並みに指定されれば非常に良いまちづくりの材料になります。これからの日本の社会を見ていくと、持続可能な施策が色々できていくのではないかと思います。その極め付けが、歴史まちづくり法という法律ができたことです。残念ながら香取市は未だまちづくり法の指定地域になっていない訳ですけども、是非これはやるべきではないかなと思います。

私たちがやってきたことは他の地域と違う取り組みです。これは、私が佐原方式と言っています。私は、この町並みを残すことがまちを活性化できる非常に良い材料だと考えました。これを無くすとお祭りも廃れ、まちは下降していくのだろうと思った訳です。そういう想いもあってこの保存活動に参加する訳ですが、住民の方には保存の価値がないと言われました。地域住民の方を納得させるというのは難しいことです。そこで、まず任意団体をまちの中で作りました。次に町屋を１件１件調査して調査カードを作ってくださいとお願いしました。実は、大事なのはこの調査カードを作って１件１件調べ評価することなのです。それを動態図に落としました。地域の人たちもこれを見て初めて未だこんなに町屋があると知り、町並み保存をやるというのは夢の話ではなくなりました。

それで初めて町並み保存に前向きになった訳です。保存計画書を作って市長に提案しました。これが今でも香取市の町並み保存の原点でもあり、この制度に基づいて行われています。その後、市で条例を作り重要伝統的建造物群保存地区に選定されたということです。保存というと指定されるだけですから皆さん嫌がります。そうではなくて、まちづくりに活かすという視点に立って住民の方を説得しないと先に進んでいかない。そういうような地域説明を丹念に行った結果９２％の同意書を得ることができました。調査に至るとこからこういう同意の取り方とか今まで前例がないような方法でやったということです。これを佐原方式と称しても良いのではないかと思います。結果的に現在の保存地区ができたということです。大切なのは、古典的な保存ではなく活用を前提にすることだと考えます。

③　アトラクション

○千葉萌陽高校ダンス部

昭和４０年代頃に創部しました。中学にダンス部が無い為ほとんどの部員は初心者からのスタートです。ダンスのジャンルは様々でHip Hop、ジャズ、ロックなど踊りたいジャンルを振り付け曲の編集も全て自分達で行っています。ダンスコンテストや地域の公演で幅広く活動しています。川サミットでは、色々なダンスを披露しサミット参加者や観客を楽しませていただきました。

○千葉萌陽高校茶道部

明治３４年学校創立と共に始まり、流派は表千家です。平成２１年には、千葉県の代表校として、全国高等学校文化祭に参加しました。小野川沿い・水郷佐原水生植物園などで茶会に参加し、地域との交流を図るなど、活発な活動をしています。１年生は風炉の薄茶点前、２・３年生は風炉の濃茶点前とおもてなしの心を大切に美しいお点前を目指し、日々稽古に励んでいます。当日は、サミット参加者や来場者の方々にお点前を披露していただきました。

④　トークショー

講師　　柳生 博 氏

演題　　「川を語る」

川や自然に関する豊富な知識のある柳生博氏のトークショーが行われました。

■生物多様性について

生物多様性は、たくさんの種類の元々その場所にいた生き物が多様に係わっているということです。生物多様性にとって大事なキャッチコピーは、里山です。具体的にどういう風景が生物多様性の風景なのか。それは水辺のある風景、水辺とは田んぼや小川です。田んぼや小川は、人間が作ったものです。田んぼ、小川、雑木林、そして私たちの集落がある。この４点セットが里山です。土というのは、生き物の死骸の集まりです。そこに雨が降り、川に流れて行ってこの豊かな流域があるのです。

■自然と農業について

自然の話をするときに一番大事なのは、農家です。それを自治体・国の方が農家の方の話を聞きながらサポートをして活動していくことが大切です。

コウノトリの事例を１つ話しましょう。絶滅してしまったコウノトリを復活させるために色んな人が集まりました。その中で一番頑張ってほしいのは、農家の方です。動物が絶滅してしまう原因の１つに農薬があります。農薬により動物が孵化する直前に死んでしまうのです。そういうことを経験する内に農薬を使うのを控えてほしいと思いました。昔、円山川で激甚災害があった時に、コウノトリにとって良い川にしようということで常に湿地状態にしました。これは、生き物を第一に考えた設計です。そこには、鳥の他に色々な生き物がいます。皆さんの地域にどうやったらコウノトリやトキを呼べるか。それは、田んぼに冬でも水を入れることです。日本にいる鳥の６、７割が渡り鳥です。それがどうして飛んでくるか、それは田んぼや水面があるからです。栃木県の小山市では、１０枚の内１枚の田んぼに水を入れたところ鳥がたくさん来るようになりました。今、野鳥の会でツバメを調査していますが、数が減っています。その理由は、皆さんがツバメの巣を落とすからです。最近、多いですが、絶対にしないでください。

■八ヶ岳に移り住んだ理由について

なぜ、僕が八ヶ岳に雑木林を作ったか。ある時に、家族の気持ちがばらばらになってしまい、このままでは家族が壊れていくと思いました。小さい頃から悩むと野良仕事をしてスッキリした気持ちになりました。そこで八ヶ岳でアトリエを建て、家族と一緒に広葉樹を中心に木を植えるようなったのです。ですから、皆さんも是非野良仕事をしてください。

日本には、川がたくさんあります。皆さん、生き物の目線で川を見てください。そして、是非鳥の気持ちになって川、湿地、水辺を見る習慣をつけてほしいです。

（音声からの抜粋による）

⑤　サミット式典

香取市立山倉小学校の児童が「第２３回全国川サミットin香取　共同宣言」を読み上げ、参加自治体の代表者とともに川の恵みを後世に引き継ぐことを宣言しました。

続いて、香取市長から次期開催地の新潟県新潟市副市長にサミット旗が手渡され、新潟市よりご挨拶をいただきました。

最後に、本サミットの全体総括を香取市長にしていただきました。

共同宣言を読み上げる香取市立山倉小学校の児童

サミット旗授与

次期開催地挨拶　新潟市副市長
山口　英樹　氏

全体総括　香取市長
宇井　成一

第２３回全国川サミット in 香取共同宣言

利根川は、群馬県みなかみ町の大水上山を源とし関東地方を北から東へ流れ銚子沖の太平洋に注ぐ日本で一番流域面積が大きい川です。

「第２３回全国川サミット in 香取」は、利根川の舟運により栄えてきた水郷の商都香取市を会場に「歴史から学ぶ川と私たちの暮らし」をテーマに開催しました。

歴史・流域文化を育んできた川の恩恵を再認識し、これからも川と共生した地域づくりに取り組んでいくことを誓い、ここに宣言します。

○わたしたちは、川がもたらした歴史や文化を大切にし、次の世代に引き継ぎます。

○わたしたちは、みんなが安心して暮らせるように、災害に強い地域づくり、川づくりに取り組みます。

○わたしたちは、たくさんの生き物と豊かな自然が息づく川づくりと、みんなが親しめる環境づくりに取り組みます。

○わたしたちは、未来を担う子どもたちが、様々な活動を通して、川に関心を持ち、川を愛する心を育みます。

○わたしたちは、川と共生する自治体どうしのつながりを深め、人々の友好の輪を広げます。

平成２６年１０月１１日

第２３回全国川サミット in 香取参加者一同

⑥　伊能忠敬旧宅公開セレモニー

伊能忠敬旧宅は、伊能忠敬が３０年余りを過ごした家で、国の史跡に指定されています。平成２３年３月１１日の東日本大震災で被災し、平成２４年度から災害復旧工事が行われてきました。工事期間中は旧宅の公開を中止していましたが、工事が完了したため再公開にあたりテープカット、工事説明会を行いました。

Ⅱ　実施内容

【展示・併催イベント】

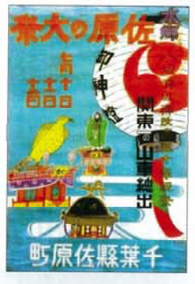
水の郷さわらにおいて、東日本大震災「香取市の記録」、参加自治体等パネル展、参加自治体物産交流展を開催しました。また与倉屋大土蔵において、佐原の大祭ポスター展及び思い出の水郷風景写真展を開催しました。

参加自治体等パネル展

参加自治体物産交流展

東日本大震災「香取市の記録」

佐原の大祭ポスター展



思い出の水郷風景写真展

Ⅲ　第２３回全国川サミット in 香取を振り返って

今回の全国川サミットでは「歴史から学ぶ川と私たちの暮らし」をテーマに、全国の自治体からの参加者と市民の方々と、歴史文化の交流を育んできた河川の恩恵を再認識し、連携を深めることを目的に、様々な催しが行われました。特に、香取市では、東日本大震災で大きな被害を受けこれまで、市民と一体となり、復興への取り組みを重ねて参りましたので、これらの様子をお伝えして参りたいと考えておりました。

１日目の１０月１０日には、水の郷さわらを会場に、参加自治体の代表者が出席し、全国川サミット連絡協議会総会が開催されました。報告事項及び協議事項について審議され、すべて満場一致で承認されました。今後の全国川サミット開催予定については、平成２７年度の第２４回全国川サミットの新潟県新潟市開催が確認され、さらに第２５回全国川サミットを福島県喜多方市で開催することが承認されました。

首長サミットでは、参加自治体の代表者から、「川を活用したまちづくり」などについて意見交換が行われました。

その後、重要伝統的建造物群保存地区を流れる小野川を舟で移動し、与倉屋大土蔵に会場を移し、未来を担う香取市立山倉小学校の児童と香取市立佐原中学校の生徒が研究発表を行いました。山倉小学校は、山倉の鮭祭りと鮭の放流、佐原中学校は、利根川の七草堤防プロジェクトについて調査内容を発表しました。そして、根本正之氏から講評をいただきました。

２日目の１０月１１日は、NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会髙橋理事長による講演や柳生博さんのトークショーが行われ、歴史や文化、自然について関心を深めました。

また、おみが和よさこい会和気藹藹（わきあいあい）や和太鼓響、千葉萌陽高校生徒の方々に日頃の活動を披露いただきました。

サミット式典では、山倉小学校の児童が「第２３回全国川サミット in 香取　共同宣言」を読み上げ、参加自治体の代表者とともに川がもたらした歴史や文化を大切にし、次の世代に引き継ぐことを宣言しました。続いて、次期開催地の新潟県新潟市にサミット旗が手渡され、力強い次期開催地のご挨拶をいただきました。

私たち第２３回全国川サミットｉｎ香取参加自治体は、今サミットにおいて採択した共同宣言の実現のため、自治体同士のつながりを深め、人々の友好の輪が広がる未来を目指し、活動してまいります。